

3 道徳の時間に生かす 指導方法の工夫

②発問の工夫

指導のポイント

- 発問は、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問を心がけることが大切です。
- 発問を考える場合は、まず授業のねらいに深く関わる「中心的な発問」を考え、次にその発問を生かすための発問をいくつか考え、全体を一体的にとらえられるように構成を工夫します。

具体的事例

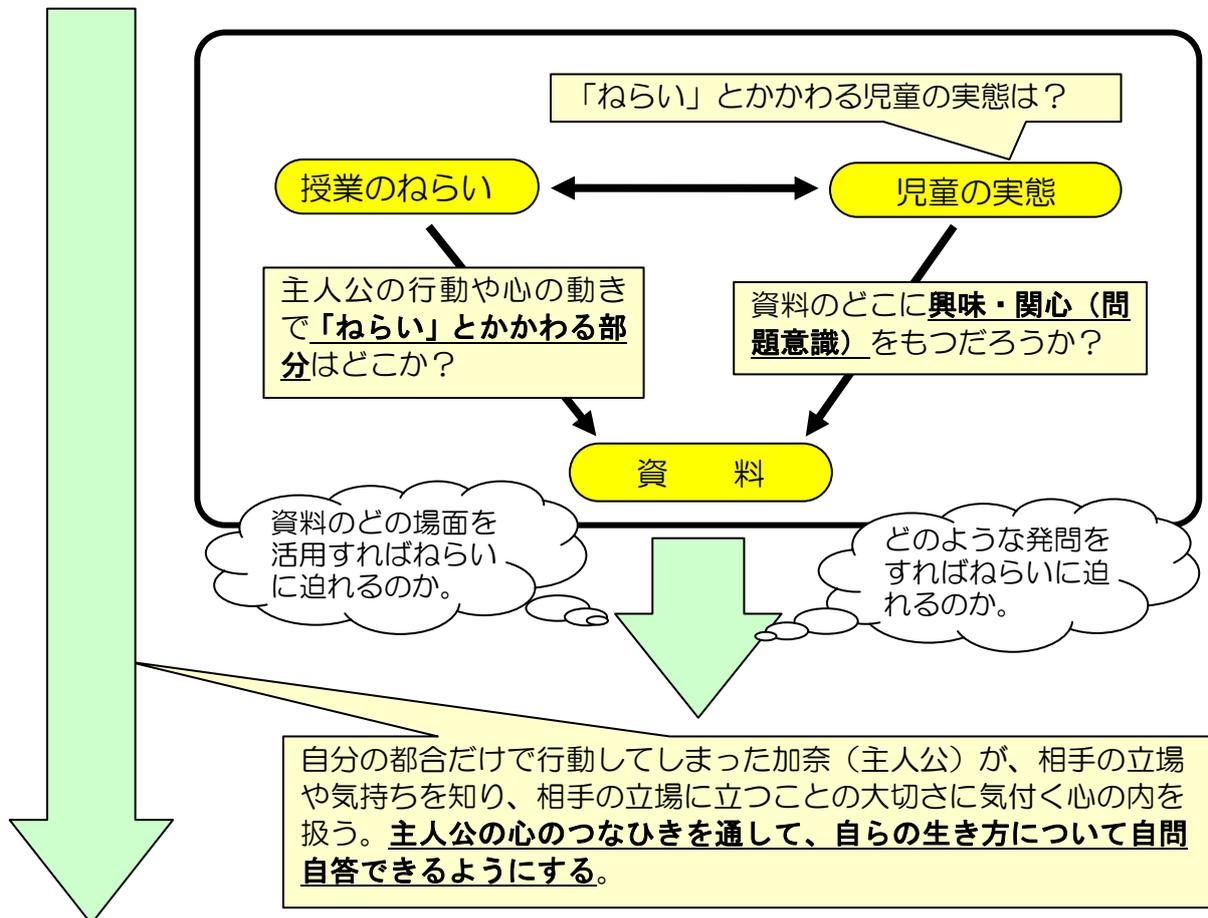
- 考える必然性や切実感のある発問等を考えるためには？

— 「彩の国の道徳」の資料をもとに考えて見ましょう。 —

【資料】 「友とのトラブル」 出典「彩の国の道徳」〈高学年〉(P27.28)

【ねらい】 相手の立場に立ち、謙虚な心で人の気持ちや考えを受け入れようとする態度を育てる。

1 中心的な発問を考える



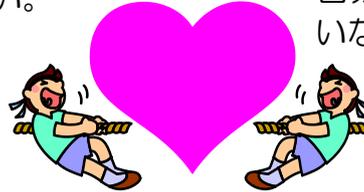
心のつなひき

人間的な弱さ（自然性）

- ・1時間も待ったのに・・・
- ・今さら、謝れない。

良心

- ・言い過ぎちゃった。
- ・自分のことしか考えていなかった。



中心的な発問

【中心的な発問例】

- 例1 亜由美（友達）の話を聞いて、加奈（主人公）はどんなことを考えたでしょう？
- 例2 加奈はどんなことに気付いたのでしょう？

発問は児童に
分かりやすい
言葉で！

- 一般的に、主人公の迷いや葛藤をとらえて中心的な発問を考えると、話合いが深まります。それが新たな価値への気づきにつながり、授業のねらいにせまることができます。



Point

- 資料によっては、迷いや葛藤の場面が捉えにくいもの、あるいは、迷いや葛藤の場面がねらいとあまり深くかかわらないものもあります。大切なことは資料や児童の実態に合わせ「ねらいに迫る！」ことを第一に考えることです。児童の問題意識や自由な思考を引き出せる発問を考えてみましょう。

2 中心的な発問の前後の発問を考える

・「中心的な発問」をより効果的にするために他にどんな発問が必要だろう？

友達を1時間も待っていた加奈の気持ちに共感できれば、「中心的な発問」での心の葛藤がさらに強まるのではないかと？

【前後の発問】

- 友達にきつく言って公園から帰ってきたとき、加奈はどんなことを考えたのでしょうか？

葛藤を通しての迷いの中から、よりよい生き方や在り方、人間としての誇りに気付く主人公の心情にふれさせることで、自分も「人としてこうありたい！」という心情が高まるのではないかな？

【前後の発問】

- 唯の家の前に立ち、父からのメールを思い出しているとき、加奈はどんなことを考えたのでしょうか？

3 発問の構成を考える

・どのような順番で発問したら効果的だろうか？

主人公の心の推移に併せて、発問の構成を考えると児童が理解しやすいのではないかな？

第1発問 主人公の人間としての弱さが現れる場面

第2発問（中心） 主人公が葛藤する場面

第3発問 主人公が道徳的価値に覚醒（目覚め）する場面

1 唯にきつく言って公園から帰ってきたとき、加奈はどんなことを考えたのでしょうか？

2 亜由美（友達）の話を聞いて、加奈（主人公）はどんなことを考えたのでしょうか？

3 唯の家の前に立ち、父からのメールを思い出しているとき、加奈はどんなことを考えたのでしょうか？

発問は3つとはかぎりません。ねらいに迫るために必要かを考えましょう。

中心的な発問がいつも2番目とはかぎりません。

* 資料の内容や児童の意識の流れに合わせて発問を柔軟に組み立てましょう。

—こんな発問構成も考えられます—

1 亜由美の話を聞いて、加奈はどんなことを考えたのでしょうか？

2 唯の家の前に立ち、父からのメールを思い出しているとき、加奈は何を考えたのでしょうか？

3 加奈の気持ちを変えたものは何だったのでしょうか？



Point

- ねらいに迫るために、教師が自らの発問の意図をしっかりとつことが大切です。
- 発問の構成は、資料の主人公の心の推移にあわせることが多いようです。ただし、児童の意識の流れや問題意識に合っているかを確認することが必要です。

4 補助発問を考える

・児童の考えを広めたり深めたりしてねらいに迫るため、児童の発言を予想して「補助発問」を考えましょう。

亜由美（友達）の話を聞いて、加奈（主人公）はどんなことを考えたでしょう？

補助発問の例

・謝るという反応をする児童が多そうだな。

・1時間も待たされるのに謝れるの？
・唯は連絡することができたんじゃないの？

・謝れないという反応をする児童が多そうだな。

・加奈は、何ですっきりしない気持ちのままだったの？
・唯は忙しくてメールに気付かなかっただよね・でもすぐ来てくれたんだよね。

留意点

- 資料や児童の実態に合わせ「ねらいに迫る！」ことを第一に考えることはもちろんですが、児童の問題意識や自由な思考を引き出せる発問を心がけましょう。
- それぞれの発問にかかる時間は同じではありません。最も時間をかけて話し合いたい「中心的な発問」に十分な時間をかけられるよう、授業の流れ、時間配分をあらかじめ考えて授業に臨むことが、ねらいに迫ることにつながります。